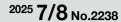
毎月第2・第4火曜日発行

下文作至一神奈川政経懇話会一 かながなかれ



夏至から11日目の「半夏生」を前に、横須賀リサーチパーク(横須賀市光の丘)内の公園で、夏に葉が白くなる「ハンゲショウ」が見頃を迎え、群生地が6月27日まで特別公開された。





政経かながわ

contents

視点点描	3
歴史家の透徹な視点に学ぶ	3
緊急寄稿	4
米によるイラン攻撃の違法性を問う	4
特集	C
事業者の苦境と高まる国民負担	 6
転換点に立つ日本の再エネ政策	
政治双眼鏡	10
	 10
石破政権の苦境打開策	
サヘル·ローズ×リアルワールド	11
「争わずに生きる」土台づくり	11
口福の源	10
「日本米」は特別な食べ物	 12
グリーン&ブルー	10
小泉コメ劇場のすごみと忌避感	 13
かながわTODAY	1.4
6月の主な経済ニュース	 14

事務局だより

◇2025年7月定例講演会

7月15日(火)午後1時30分~3時 県民共済みらいホール(桜木町・ 県民共済プラザビル内)

講師:横浜国立大学台風科学技 術研究センター長 筆保 弘徳氏

◇2025年8月定例会 (工場見 学と講話)

8月28日(木)午後2時30分~5時 キリンビール横浜工場(京急本 線生麦駅から徒歩)

講師:キリンビール横浜工場長 藤原 義寿氏

キリンビール工場見学・試飲 有志ビアホール懇親会(午後5 時~、参加費5千円)

◇2025年9月定例講演会

9月24日(水)午後1時30分~3時かながわ労働プラザ(石川町駅から徒歩)

講師:神奈川新聞特別編集委員 有吉 敏氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226)2121。



歴史家の透徹な視点に学ぶ

怖い」と著書に記す。 30年代の雰囲気が今と似ていて 事を専門とする加藤さんは「19 願おうと、歴史学者の加藤陽子さ んの著作を集中して読み込んだ。 画連載「戦後80年を問う」に登場 1930年代の日本の外交と軍 文化部で今年取り組んでいる企

れた国際連盟は1920年代に領 第1次世界大戦の反省から生ま

> 任理事国によって壊された。31年 の満州事変では、結果として力に に責任を持つはずの日本などの常 エスカレートを防いだ。 しかし、その試みは世界の平和

土問題や紛争を解決し、戦争への

もこれに倣った行動に傾斜する。 よる現状変更を国際社会が止めら れず、イタリアやナチス・ドイツ 歴史は同じ形では繰り返さない

韻を踏むと言われ

事国自体が安保理の機能不全を招 ランにも空爆を行い、国際法違反 否権を使って擁護する。米国は を攻撃するイスラエルを米国が拒 がウクライナを侵略し、 も指摘されている。安保理常任理 秩序を乱している事態だ。 安保理常任理事国のロシア ガザ地区

事費を倍増させ、武器輸出の全面 を持って戦争できる国へと政策を 戦争ビジネスに追従する形で、軍 球規模で広がり、それに伴って軍 解禁に道を開き、敵基地攻撃能力 需産業が拡大する。日本も米国の 武力による現状変更の懸念が地

学者が日本学術会議に推薦されな かされずにいる。 を拒否された。理由はいまだに明 がら、菅義偉首相(当時)に任命 2020年、加藤さんら6人の

> は、軍事研究に協力しないという 反発があると見られる。 景には、こうした姿勢への政府の 声明を出してきた。任命拒否の背 立ち、戦後に設立された学術会議

対峙する加藤さんの姿勢に歴史 だ。したたかに、粘り強く、国と 家の矜持を見る。 たちはもっと深く胸に刻むべき 否する。このことの危うさを、 もに民主主義の根幹をなすからだ。 た。公文書の管理、情報公開はと 示を求めた訴訟の原告ともなっ 拒否の経緯に関する行政文書の開 の重要性に何度も言及する。任命 理由も示さず、国家が個人を拒 歴史家として、加藤さんは記録

で叶わなかったが、著書を読み、 直すという貴重な機会を持てた。 歴史を学ぶことで、現在を見つめ (神奈川新聞社文化部長兼 インタビューは加藤さんが多忙

論説委員・桐生 勇

科学者が戦争に加担した反省に